

「日本学術会議問題と大学」ミニ講座概要 京大職組主催 2021. 1. 25

芦名定道 京都大学文学研究科 教授

【講義概要】

日本学術会議第 25 期の会員候補のうち、6 名が菅総理によって任命拒否された問題（日本学術会議問題）について、その当事者の一人として、現在までの経過を振り返り、この問題について理解を深めてみたいと思います。

特に注目したいのは、日本学術会議問題の歴史的経過を遡って考えれば、今回の問題の核心は、任命拒否された 6 名のそれぞれの個人的な事柄にあるというよりも、**日本学術会議自体のあり方にあったと推測**されます。つまり、政府の立場から問題視されたのは、日本学術会議が一貫して、**軍事研究に批判的な立場を表明してきたこと**にあったと思われます（内閣府などから説明がなされたわけではなく、あくまで推測ですが）。

今回のミニ講義では、この日本学術会議問題の発生に対する各界からの反応について、確認した上で、そこから、**現代の日本の大学が直面している問題状況**（1990 年代以降の大学設置基準の大綱化、大学院重点化、国立大学法人化 → 国立大学の場合の運営費交付金と中間計画の仕組み）へとさらに分析を進めたいと思います。この問題は、大学における研究のあり方、また大学自治にも関連しており、こうした議論を通して、今回の日本学術会議問題が大学にとって何を意味しているのかが、より明確になるだろう。

そして、ミニ講義では、以上の議論と京都大学における**職員組合のあり方**にも言及したいと考えています。

【講師略歴】 芦名 定道（あしな・さだみち） 1956 年、山形県新庄市生まれ。1980 年京都大学理学部卒業、1982 年同文学部哲学科（キリスト教学専修）卒業、1988 年 10 月大阪市立大学文学部講師（宗教学）、1992 年助教授。1994 年「P. ティリッヒの宗教思想研究」で京都大学博士（文学）。1995 年京大文学部助教授（キリスト教学）、2007 年文学研究科准教授、2008 年教授。主な著書「ティリッヒと現代宗教論」（北樹出版、1994 年）「自然神学再考 近代世界とキリスト教」（晃洋書房、2007 年）「東アジア・キリスト教研究とその射程 無教会キリスト教を中心に」（三恵社、2019 年）「現代神学の冒険 新しい海図を求めて」（新教出版社、2020 年）など。

一部を表示

<佐々木コメント>

職員組合の職員は「いわゆる教員も含まれているので『組合内では、全ての職種階層は平等である』ということから職員組合と称している。